

1. 社会・治安情勢

連邦区(DF)は、昨年の国勢調査の結果、サンパウロ、リオデジャネイロに続き全国で3位の人口となりました(それまで徐々に順位を上げてきた結果)。

市民生活がいわゆる「コロナ禍以前」の状態に戻ってきて、各種イベントがコロナ対策を講じることなく開催されており、人の移動や行動範囲も通常通りになったことや、物価上昇やインフレの動きも依然としてあることから犯罪発生状況も増加傾向にあります。

日本と比べてキャッシュレス化が進んでおり、人々が現金を持ち歩かない生活となっていますが、その分、狙われるのは「スマートフォン」「乗り物」が圧倒的です。

特に、衛星都市及びブラジリア中心部(プラノピロト地区)周辺、ブラジリア大学付近では、路上強盗のほか、車上ねらい、自動車盗、薬物取引等の犯罪が日常的に発生しています。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

連邦区公安局による令和5年1月～5月の犯罪統計によれば、発生件数が多い犯罪について令和4年の同時期と比較すると、路上強盗、乗り物強盗、乗り物盗などは18パーセントの減少(12,021件→9968件)が見られたものの、殺人や強盗殺人の数値は昨年と比べて横ばい、もしくは微増(110件→115件)しています。減少したとはいえ、路上強盗だけをとってみても、10万人当たりの発生件数は日本全国で0.59件に対してブラジリアだけで535件と、約906倍です。

日本人や日系人が多く居住、利用するASA SUL地区においては、携帯電話を目的とするひったくり事件が多発していることから、食事や買い物中の携帯電話の所在には十分注意すると共に、路上における携帯電話の使用(いわゆる「歩きスマホ」)は、緊急事態以外では避けてください。

強盗犯罪の特徴として、殆どのケースでけん銃やナイフ等の凶器が使用されていますので、抵抗すると生命に危険が及びます。まずは「生命の安全を第一」に考えて行動してください。

3. テロ・爆弾事件発生状況

テロ事件の発生は認知していません。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は認知していません。

5. 日本企業の安全に関わる諸問題

現在、特段の情報はありません。